

令和8年度 幟町地区まちづくり委員会事業計画書

1 今年度の目標

・各事業の参加者・担い手を増やし、活性化を図る。
・所属団体をバックアップし、事務負担を軽減、人材育成をし、各団体の活動を後押しをする。

2 ひろしまLMO運営助成金を活用する事業

1 事業名	幟町地区慰霊祭等	(6)事業中(1)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(1) 地域の伝統的な行事又は文化の継承に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年6月16日 ～ 令和8年6月16日	
(2) 実施場所	幟町公園	
(3) 参加者数	150 人(見込み)	
(4) 主催団体	団体名 幟町地区まちづくり委員会、幟町地区連合町内会	
4 取組内容	被爆当時、幟町小学校があった幟町公園にて、地域の代表者と小学校の先生、小学2年生とともに慰霊碑を前に被爆で亡くなった方々へ黙とうをし、被爆体験の話を聞く。 そして、この取り組みを持続的なものとするため、毎月慰霊碑に花束をお供えする。	
5 目的・効果	(1) 目的(どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 戦争を知らない世代が多い中、幟町地区の被爆状況や被爆体験を次世代へ継承するため、幟町地区出身ではない方にも、慰霊碑に関心を持っていただき、当地区の歴史に触れていただく。 (2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 戦争の経験のない子どもたちに平和の大切さを認識してもらい、平和への思いを地域とともに共有することができる。 ユネスコスクールに認定されている幟町小学校の児童に原爆の恐ろしさと平和の大切さを認識してもらい、世界へ平和の大切さを積極的に発信できる大人に育てる。 自分が住む街の被爆状況を聞くことで、戦争の悲惨さを間近に感じてもらう。 慰霊碑建立に尽力された方々(被爆当時の教員)の思いに触れ、当地区の住民が共有し、結束を高めることができる。 毎月慰霊碑に新しいお花が添えられることで、上記効果が持続的なものとなる。	

1 事業名	幟町地区敬老会	(6)事業中(2)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(6) 地域の高齢者、障害者等への支援に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年9月27日 ～ 令和8年9月27日	
(2) 実施場所	幟町小学校体育館	
(3) 参加者数	220 人(見込み)	
(4) 主催団体	団体名 幟町地区まちづくり委員会、幟町地区社会福祉協議会	
4 取組内容	地域の長寿者(75歳以上)をお招きし、長寿者の表彰やお弁当を振る舞うことにより、お祝いをする。 子どもたちによる発表を行い、世代間交流を図る。 地域行事等の紹介を行い、社会福祉協議会や老人クラブなどが主催するイベントの周知を図る。地域包括支援センターの紹介と活動、楽々ネットについて周知する。	
5 目的・効果	(1) 目的(どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 長年幟町地区を支えて下さった高齢者を敬い、さらなる長寿を願うため (2) 効果(事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 長寿者が多いことは、その地域の生活環境が良いことを意味し、永住に繋がる。 そして、長寿者から豊富な知識を今の世代が受け継ぐことで、地域の歴史なども受け継がれ、世代間の交流が図られるとともに、地域の安定化に繋がる。 敬老会への参加によって高齢者の社会参加を促すとともに、会の中で地域の集いの場であるサロンの広報等を行い、日ごろからつながりを持てるようにし、孤立化を防ぐ。 敬老会の参加者の様子を注視し、認知機能の確認を行い、場合によっては、包括支援センターなどと連携し、楽々ネットなどの制度を紹介し、対策に繋げる。 子どもたちや活動団体の活動披露の場を設ける。	

1 事業名	豚汁ハイキング	(6)事業中(3)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(3) 地域住民の交流促進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年11月1日 ～ 令和8年11月1日	
(2) 実施場所	八田原ダム (芦田湖キャンプ場：世羅)	
(3) 参加者数	70 人 (見込み)	
(4) 主催団体	団体名 幟町学区体育協会	
4 取組内容	幟町地区の三世代でハイキングをした後、豚汁を一緒に食べながら話をしたり、モルックなどの競技を行う。	
5 目的・効果	(1) 目的 (どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 住民同士のふれあいの場が少なくなっているため、スポーツを通じて、世代間を含む交流の機会を創出する。 また、運動能力が落ちている子どもたちや運動する機会が少なくなっている保護者・高齢者にも運動の機会を創出する。特に高齢者には、外出する機会を提供し、人と触れ合ってもらい、孤立化を防ぐ。 小学校の保護者に体育協会の活動など地域の活動に参加していただき、地域の重要性を理解してもらう。 (2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 普段交流の少ない住民が世代を超えて交流することで、結束力を生み、犯罪・災害発生時に向け、助け合いの心を育む。 ハイキングという適度な運動をする中で、世代間で会話をし、お互いの状況を知ること、つながりづくりや住民の課題の解決に結びつける。 来年度も参加したいと好評だったため、継続できる事業にする。	

1 事業名	幟町地区とんど祭り	(6)事業中(4)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(11) 地域の伝統的な行事又は文化の継承に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年1月10日 ～ 令和8年1月10日	
(2) 実施場所	幟町小学校グラウンド	
(3) 参加者数	1, 200 人 (見込み)	
(3) 主催団体	団体名 幟町地区まちづくり委員会、幟町地区連合町内会 幟町地区社会福祉協議会、幟町学区子ども会育成協議会 (主管)	
4 取組内容	門松・しめ縄・破魔矢などのお正月飾りや書初めを持ち寄ってお焚き上げし、お餅やぜんざいを振る舞い、その年の無病息災や五穀豊穡を祈願する。 文教地区でもある幟町地区内にある学校に声をかけ、その学生とともにとんどの竹を取りに行き、世代間交流を図る (予定：状況によっては、竹を購入する可能性もある)。 周辺の学校に通う海外の学生にとんどの神事を体験してもらい、日本文化を広めるとともに、異文化交流を行う。	
5 目的・効果	(1) 目的 (どうして実施するのか。実施する背景は何か。) 地域・地域住民の無病息災や五穀豊穡を祈願する。 多くの住民が同じ目的の下に集まり、交流を深めながら、お互いに寄り添う気持ちを養う。 昨今、とんどという伝統行事が中止になる地域が増えてきた。 (2) 効果 (事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。) 地域住民の健康を案じ、互いの健康に目を向けるとともに、お互いに寄り添う気持ちを養い、世代間の交流を図る。 次世代へ伝統行事の継承を行う。高齢者の社会参加を促し、孤立化を防ぐ。 幟町地区の学校に通う学生同士の交流を行い、連携できる体制作りを行い、災害時や緊急時に対応できるようにする。また、同時に多世代交流・異文化交流を行えることが期待され、平和都市でもある広島の子どもたちに海外へ目を向ける機会を与えることができる。さらに、海外の学生に日本文化・広島文化を伝えることで、世界に広めることができる。	

1 事業名	幟町地区情報発信強化事業	(6)事業中(5)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(14) (1)～(13)に掲げる活動の地域内外への情報の発信に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	幟町地区まちづくり委員会拠点（幟町集会所）	
(3) 参加者数	10,000 人（見込み）	
(4) 主催団体	団体名 <u>幟町地区まちづくり委員会、幟町地区連合町内会</u> <u>幟町地区社会福祉協議会</u>	
4 取組内容	こむネット、Instagramなどを活用し、地域行事の情報発信をリアルタイムに行うとともに、後世に活動記録を残す 映像などを記録し、各行事で所属団体が主催するイベントの周知を行う。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 地域でどのような活動が行われているのか、いつ行われるのか、回覧板等では周知しきれていない現状がある。また、適切な時期に回覧板が回りきらない現状がある。 これまでの活動記録が残せていない現状があり、行事再開の足枷にもなっている。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） 映像を使って各行事のイベントの広報等を強化することにより、地域住民に地域活動に興味を持っていただき、団体や活動への参加者を増やす。 活動記録を残すことにより、改善点などを見直すきっかけを作る。 リアルタイムに確実に回覧板を受け取る仕組みを作り、広報漏れを防ぐとともに、負担軽減も図る。	

1 事業名	楽々サロン ダーツ教室	(6)事業中(6)事業目
2 特定地域共同活動の分類	(2) 地域住民の健康の維持増進に資する活動	
3 実施期間等		
(1) 実施期間	令和8年4月1日 ～ 令和9年3月31日	
(2) 実施場所	幟町集会所	
(3) 参加者数	500 人 (延べ見込み)	
(4) 主催団体	団体名 <u>幟町地区まちづくり委員会、幟町地区社会福祉協議会</u> <u>幟町地区老人クラブ連合会</u>	
4 取組内容	ダーツ教室を開き、運動による健康増進を図るとともに、運動能力向上や認知症予防を行う。運営も老人クラブ主体で行うようにし、持続的な活動となるようにする。 また、運営を通じて、老人クラブの活性化と人材育成に繋げる。 老人クラブの会員だけではなく、地域の高齢者が誰でも参加できるよう、活動の周知を行う。	
5 目的・効果	(1) 目的（どうして実施するのか。実施する背景は何か。） 近年、老人クラブ主催の楽々サロンの参加者が減少している。 老人クラブの運営に関わる人材が不足している。 (2) 効果（事業の実施により、地域課題の解決にどのような効果が見込まれるか。） ダーツ教室を開催することで、高齢者の社会参加の機会を創出し、運動がもたらす効果について実感していただくことで、口コミにより参加者が増える。 老人クラブの活動に関心を持ってもらう機会となり、会員獲得に繋げる。 運営を通じて、参加者同士の会話が增え、同時に人材の育成に繋がる。 他地区や他団体との交流も視野に入れることで、人と触れ合う機会が多くなる。	

3 自主財源で実施する事業

年月日	事業名	特定地域共同活動の分類	取組内容
令和8年 7月25日 (予定)	防災意識向上	(8) 地域の防災又は減災に資する活動	子ども会主催の夏祭りにて、自主防災連合会のブースを設け、地震対策の啓蒙を行う。
令和8年 11月15日	消火器体験	(8) 地域の防災又は減災に資する活動	PTA 主催のバザーに自主防災連合会のブースを設け、こどもたちに消火器体験・AED 体験をしてもらう。
令和8年度	通学路の安全確保とあいさつ運動	(10) 地域の交通安全に資する活動	PTA と連携し、通学路の安全確保とあいさつ運動を行う。